

# 新入寮生歓迎会



4月4日（月）東広島キャンパス、23日（土）呉キャンパスで、学生寮（学生研修棟）に入寮する新生を対象に歓迎会を開催しました。

歓迎会には、先輩の在寮生や教職員も参加。

吹奏楽部やアコースティックギター部による歓迎パフォーマンス、ご当地キャラのサプライズ登場など、趣向を凝らした企画で大いに盛り上がりました。

東  
広  
島



在寮生から歓迎のあいさつ

呉



すっかり打ち解けた様子の新入寮生たち



アコースティックギターの音色に乗せた歌声が会場を魅了



華やかな吹奏楽部の調べ



テーブルを囲んで談笑

## ～今求められる専門職連携の在り方を学ぶ～ 「広国 DAY」開催

4月6日（水）、全キャンパスの学生を対象に、「広国DAY」を開催しました。2014年度から始まった本イベントでは、広国大で実施する専門職連携教育（IPE）への理解を深めるとともに、健康・医療・福祉現場の最前線に立つ講師から、今求められている専門職業人の姿を学びます。今回は、先進事例を学ぼうと学生1,055人が参加しました。

IPEについて説明した清水壽一郎教授（診療放射線学科）は、専門職連携の意識が乏しかった過去を振り返りながら、今の医療現場にはチームで協働できる専門職業人が不可欠と強調。メンバーが互いに尊重し、関連に議論できるチームを目指して、IPEに取り組んでほしいと語り掛けました。



「医療従事者には患者に寄り添う気持ちが大事」と語る東條氏



会場の呉キャンパスでは多くの学生が参加

講演会では、中山間地域の北広島町で在宅緩和ケアに力を入れ、看取り文化を支える医師として注目されている東條環樹氏（芸北ホリスティックセンター長・北広島町雄鹿原診療所所長）を講師に迎え、専門職連携が地域医療を支える実例について紹介していただきました。

医師として働く中で、医療行為のみを注視して診療にあたっていることに、疑問を抱いたという東條氏。自宅で家族に看取られながら最期を迎えたい、と考える患者やその家族の希望を叶えるために、東條氏が代表を務める施設では専門職がチームを組んで、在宅緩和ケアを実施しています。

「国家資格の取得をゴールだと思わずに、自分が医療の現場から社会を変えるんだ、という思いを持ってほしい」と、将来、チーム医療の一翼を担う学生たちに向けて、熱いエールが送られていました。